

国指定史跡伊予遍路道に「繁多寺境内」が追加指定されます

1.種別 史跡

2.名称 伊予遍路道

いよへんろみち

かんじさいじみち

観自在寺道（愛南町）

いなりじんじゃけいだい りゅうこうじけいだい

稲荷神社境内及び龍光寺境内（宇和島市）

ぶつもくじみち

仏木寺道（宇和島市）

めいせきじみち

明石寺道（宇和島市）

めいせきじけいだい

明石寺境内（西予市）

だいほうじみち

大寶寺道（西予市・大洲市・久万高原町）

だいほうじけいだい

大寶寺境内（久万高原町）

いわやじみち

岩屋寺道（久万高原町）

いわやじけいだい

岩屋寺境内（久万高原町）

じょうるりじみち

浄瑠璃寺道（久万高原町）

じょうるりじけいだい

浄瑠璃寺境内（松山市）

やさかじけいだい

八坂寺境内（松山市）

じょうどじけいだい

浄土寺境内（松山市）

はんだじけいだい

繁多寺境内（松山市）

よこみねじみち

横峰寺道（西条市）

よこみねじけいだい

横峰寺境内（西条市）

さんかくじおくのいんみち

三角寺奥之院道（四国中央市）

3.特徴など

遍路道は空海（弘法大師）ゆかりの寺社を巡る全長1,400キロメートルにも及ぶ霊場巡拝の道で、弘法大師の足跡を追体験する四国を一周する信仰の道です。

伊予遍路道は延長500キロメートル以上あり、四国のなかで距離が一番長い遍路道です。主要街道と重複するため、近代以降改変された箇所が多く見られますが、現在もなお旧状をとどめている箇所があります。

今回、松山市所在の第50番札所繁多寺を伊予遍路道に追加指定する予定です。

○繁多寺境内

寺伝によれば、天平勝宝年間（749～757年）に孝謙天皇（在位749～758年）の勅願により、行基菩薩が薬師如来像を彫像して安置し、「光明寺」として創建され、弘仁年間（810～824年）に弘法大師が逗留し、「東山・繁多寺」と改め、霊場としたとされています。

その後、寺は衰微しますが、伊予国司・源頼義らの援助により再興し、弘安2年（1279年）には後宇多天皇（在位1274～1287年）の勅命を受け、聞月上人が蒙古軍の撃退を祈祷しています。また、時宗の開祖・一遍上人が青年期に修行し、晩年の正応元年（1288年）には亡父が所蔵していた『浄土三部経』を奉納しています。さらに、江戸時代には、四代将軍・徳川家綱（在職1651～1680年）が念持仏としていた歓喜天を祀るなど、大寺として栄えたとされています。

明治9年（1876年）の火災により歓喜天堂や庫裏は焼失しましたが、徐々に再建し、現在に至っています。なお、境内地の南方に、近世に造立された聞月上人を供養する宝篋印塔が建つ墓域があります。



繁多寺本堂

4.所有者 繁多寺（繁多寺境内）

5.所在地 松山市畑寺町32番 ほか